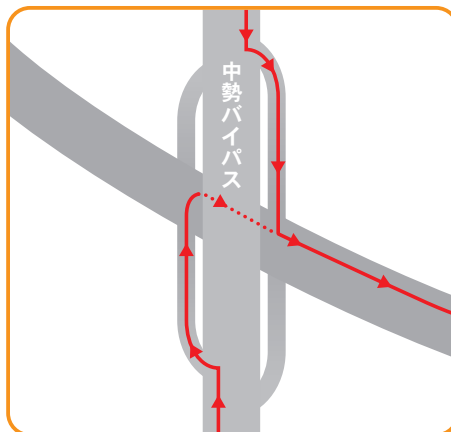


ア ク セ ス マ ッ プ



交通のごあんない

電車で…

- 「名古屋駅」から「津駅」まで
JR快速みえ・近鉄特急で50分
- 大阪「難波駅」から「津駅」まで
近鉄特急で90分

車で…

- 「津駅」からタクシーで約10分
- 津駅西口バスのりば「1番」から
三重交通バスで「夢が丘団地」行き
「看護大学前」バス停下車 徒歩1分

飛行機 船で…

- 「中部国際空港(セントレア)」から津エア
ポートラインで「津なぎさまち」へ40分
「津なぎさまち」からタクシーで
「三重県立看護大学」まで約20分



学章の由来

看護のイメージを高めてほしいという願いと、未来に向かって成長していく若者の姿を大小2つの異とナースの「N」をモチーフにして表現しました。



三重県立看護大学は環境配慮の国際規格を認証取得しました。
看護系大学で初めてISO14001を認証取得。

地球環境と共生し調和するエコキャンパスをつくるため、ISO14001に基づく環境マネジメントシステムを構築し、地球環境にやさしいキャンパスづくりを積極的に推進しています。

ISO14001とは…ISO（国際標準化機構）環境保全のための国際規格ISO14000シリーズのうち、ISO14001は企業や団体が事業活動を行う際に、環境に対する負荷を軽減する事業活動の一部として組み込み、継続的改善を行うための環境マネジメントシステムについて定めています。



公立大学法人

三重県立看護大学

〒514-0116 三重県津市夢が丘1丁目1番地1

TEL 059-233-5600 (代)

FAX 059-233-5666

http://www.mcn.ac.jp



…大学からのお知らせ…

《永久メール》

本学では、短期大学・専攻科・大学・大学院の卒業生に対し、永久メールアドレスをお渡しすることを検討しています。決定次第、連絡させていただきます。

《プロモーションビデオ》

大学PR用のプロモーションビデオの作成をしています。22年3月のアカデミックオープンキャンパスで紹介予定です。

MCNワーキング編集後記

独立行政法人化初年度の慌しい中ではありましたが、このたびMCNレポートを無事に編集することができました。関係した皆様には感謝・感謝です。



MIE PREFECTURAL COLLEGE OF NURSING

MCN REPORT

2010 Vol.13

あいさつ	1～2ページ
大学の動き	3～8ページ
学部・大学院の案内	9～10ページ
卒業生支援事業	11ページ
生協・図書館・保健室	12ページ
教職員の紹介	13～14ページ



2009年 夢緑祭



公立大学法人
三重県立看護大学
MIE PREFECTURAL COLLEGE OF NURSING



理事長〔学長〕あいさつ

村本 淳子



学長あいさつ

この1年、本学にとってもっとも大きな出来事は、平成21年4月1日に独立行政法人化し、「公立大学法人三重県立看護大学」となったことでしょう。法人化することにより大学は、これまで以上に「自主・自律の精神」で、主体的に行動を起こし、受験生、在学生、卒業生に対し、質の高いサービスをより迅速に行なうことができるようになったことです。さらに地域の医療関係機関や地域住民との協働・連携が、より近くより深くそしてタイムリーにできるようになったことだと思います。本学の使命でもあります「地域に根ざした大学」の実現に確実に一歩ずつ近づいていっております。

また看護を取り巻くこの1年の変化は、平成21年7月9日に「保健師助産師看護師法及び看護師等の人材確保の促進に関する法律の一部を改正する法律案」が衆議院本会議で可決・成立しました。法改正ポイントは、①看護師受験資格に「大学」を明記、②保健師・助産師の教育年限1年以上に、③卒後研修の努力義務化です。看護職の基礎教育体制の改革は60年ぶりといわれています。このように看護教育を取り巻く社会からの期待も変化してきています。

上述しました本学の法人化と国の「保助看法」「人確法」の改正は、平成21年4月と7月にほぼ時を同じくして行われました。今後、大学としては社会の変化を十分に見据えて、大学の使命、本学の使命を果たすべく教職員一同、努力してまいりたいと思います。

学生部長

玉田 章



法人化後の教育・研究について

大学法人化後も基本的な大学の機能である「教育」「研究」については、基本的な変更はありません。これまでも、そしてこれからも、入試から卒業までの改善を図り、地域特性に応じた看護教育・研究活動を積極的に推進し、看護の様々な分野で、人々の保健・医療・福祉の向上に寄与する人材を育成していきます。学生の教育や福利厚生に関係する施設設備については、これまで以上に大学独自で意思決定できるようになり、設備面の充実が柔軟に速やかに行えるようになっていきます。

メディアコミュニケーションセンター長

齋藤 真



メディアコミュニケーションセンターは、本学が法人化する際に附属図書館および情報センター室を統合して新たに設置された組織で、企画情報担当理事が直轄して運営にあたっています。主な事業は、学術情報の効率的な利用と発信およびITインフラを活用した学内外との教育の推進です。さらにメディアコミュニケーションセンターでは、高校訪問やオープンキャンパスの開催といった学生募集活動や教育懇談会の実施など、受験生や在学生のニーズに応えるための活動も積極的に展開しています。本学の新たな組織であるメディアコミュニケーションセンターをよろしくお願い申し上げます。

副理事長〔事務局長〕あいさつ

渡辺 重和



法人化して事務の何が変わったか

一言で言うと、「依存から自立」。予算作成、契約から支払いまでの会計処理、施設・設備管理、組織変更や法人固有職員の任用など、自分で考え、自分でできることが多くなりました。これらを、スケジュールを作り、学内学外調整をしながら能動的にこなしていくことが求められています。一方、小さいながらも、運営に関する様々な規程をすべて作り、管理する必要があって、これは大変な労力。給与改定なども、法人としてこまめに規定の改定を行わなければなりません。

法人関係の仕事もあって、理事会、経営審議会などの対応は新たな事務で、法人化を最も強く感じさせられる業務です。

事務局全体に法人化の意識がきちんと浸透したとはまだまだ言えません。せっかくの法人化ですから、そのメリットを十分に発揮して本学の発展に貢献できる事務局にしなければなりません。事務局の改革は法人化がスタートです。新しいことに挑戦しながら、経験を積み、専門性を高めてより良いサービス提供や効率的な業務ができるよう職員自らが変わり、自立し頼りにされる事務局を目指します。皆様のご支援、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

地域交流センター長

山口 和世



平成21年4月1日三重県立看護大学の公立大学法人化にともない、附設機関である地域交流センター（旧地域交流研究センター）は、本学の教育・研究の成果を地域社会に還元するとともに、地域社会の多様な主体との連携・協働・共同および地域の皆様との交流をととして、以前にも増して本学の地域貢献を充実・発展させたいと考え、活動しております。地域交流センターにたいする皆様方のご理解、ご協力に感謝申し上げますと同時に今後もよろしくご支援賜りますようお願い申し上げます。本学ホームページ「地域交流センター」を是非ご覧いただきますように併せてご案内申し上げます。http://www.nurse.mcn.ac.jp

…法人化記念植樹…

4月の入学式終了後、法人化を記念して「三(み)重県立「看(かん)」護大学にちなんで「みかんの木(みえ紀南1号)」5本が、野呂昭彦三重県知事、法人役員、新入生代表の手により植樹されました。



【みかんの木の成長】



5月 みかんの花がさきました



8月 みかんの実がなりました



11月 みかんが熟しました

…みかんちゃん…

「三重県立看護大学」を略すと「三看大(みかんだい)」となります。その「みかん」に本学の学生が持つ「優しさ」をプラスした結果、このような愛らしいみかんちゃんが誕生いたしました。





発展していく大学 '09 PART 1 ～地域住民へのアプローチ～



5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月
<ul style="list-style-type: none"> ●看護フェスタ（三重県総合文化センター） 	<ul style="list-style-type: none"> ●出前授業の開始（三重県立看護大学地域交流センター） ●「フレンテまつり」に参加（フレンテみえ） 	<ul style="list-style-type: none"> ●「みえアカデミックセミナー」（二重県生涯学習センター） ●「三重県との共催公開講座（二重県立看護大学講堂）」 ●「三重県との共催公開講座（二重県立看護大学講堂）」 ●「三重県との共催公開講座（二重県立看護大学講堂）」 	<ul style="list-style-type: none"> ●「三重県との共催公開講座（二重県立看護大学講堂）」 ●「三重県との共催公開講座（二重県立看護大学講堂）」 ●「三重県との共催公開講座（二重県立看護大学講堂）」 	<ul style="list-style-type: none"> ●「三重県との共催公開講座（二重県立看護大学講堂）」 ●「三重県との共催公開講座（二重県立看護大学講堂）」 ●「三重県との共催公開講座（二重県立看護大学講堂）」 	<ul style="list-style-type: none"> ●「三重県との共催公開講座（二重県立看護大学講堂）」 ●「三重県との共催公開講座（二重県立看護大学講堂）」 ●「三重県との共催公開講座（二重県立看護大学講堂）」 	<ul style="list-style-type: none"> ●「三重県との共催公開講座（二重県立看護大学講堂）」 ●「三重県との共催公開講座（二重県立看護大学講堂）」 ●「三重県との共催公開講座（二重県立看護大学講堂）」

…国際交流…



本学は、開学以来国際的視野を持って活動できる能力の育成を教育目標に上げ、国際交流を推進してきました。2001年にはタイ国マヒドン大学との交流協定を締結し、学生の相互短期研修が始まりました。昨年度からはこの短期研修が国際看護実習Ⅰという科目となり、来年度はさらに先進国における保健医療と看護を学ぶ国際看護実習Ⅱを開講しようと準備を進めています。マヒドン大学からは毎年春に学生を受け入れています。

すでに本学を巣立った卒業生の中には海外に出て活躍しておられる方もいらっしゃいます。本学の国際交流が学生の皆さんの視野を広げ、看護観を深めることにつながることを願って、これからも国際交流を推進していきたいと思っています。

みえアカデミックセミナー2009

平成21年夏、みえアカデミックセミナー2009として、三重県生涯学習センター（三重県総合文化センター内）にて、県内の大学、短期大学、高等専門学校による公開セミナー15講座が開講されました。そのうち7月23日には、本学心理学担当、小池敦教授による講演『こころと向き合う』が開講されました。20歳代から80歳代まで118名の方々が聴講され、好評を博しました。会場からは「心理学の基本的な考え方を教えてもらった」、「一生懸命で気楽に生きるのもいいかな、と思った」、「40数年ぶりに学生に戻ったひとときだった」などの声がありました。

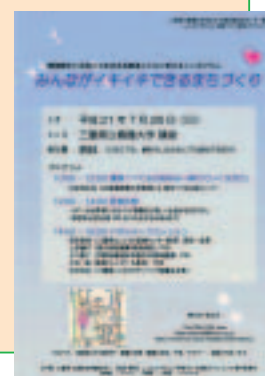


浦河べてるの家のみんなが大学にやってきた！！

北海道「浦河べてるの家」は、精神障がい回復者の活動拠点として有名です。精神障がいを抱えて生きる当事者とともに考えるシンポジウム『みんながイキイキできるまちづくり』に参加するため、彼らが真夏の三重県にやってきました。シンポジウムのプログラムは盛りだくさんです。向谷地生良氏と浦河べてるの家のメンバーによる講演、作業所のバザー、精神障がい当事者によるバンド演奏、三重県内の病院・地域保健・当事者・住民の代表によるパネルディスカッションなど。県内外から約450名が参加し、みんながイキイキできる、こころにやさしいまちについて考えました。

注）平成21年度三重県立看護大学地域交流センター事業『こころにやさしい地域づくり推進プロジェクト』の一部として、三重県と共催で実施。

詳しくは <http://www.mcn.ac.jp/kokoro/>



日本とタイのHIV / AIDS

三重県内の医療従事者や教育関係者等へのHIV/AIDS知識の普及・啓発を目的として、HIV/AIDSの予防に成果を挙げたと評価されているタイからHIV/AIDSの研究者であるマヒドン大学准教授ワンタナ先生を招き、県健康福祉部職員及び本学の教員とともに日本及びタイにおけるHIV/AIDSの現状、感染予防の取り組みや看護ケアに関する講演・討論を行いました。講演をするにあたり、赤外線同時通訳システムを用いました。



人にとってとても大切なこと、そして誰にでもできること

三重県立看護大学とNPO法人三重いのちの電話協会共催で、関西国際大学大学院教授、本学理事の清水将之先生を講師にお招きし、市民公開講座が開催されました。病院関係者、学校関係者、県民のみなさん、学生さん等309名の参加があり、心をひきつける清水先生の講演に聞き入りしました。会場からは「聴くことの大切さを知ることができた」、「人に寄り添うことに意味があることがわかった」、「ボランティアの意味を理解することができた」などの声がありました。





発展していく大学 '09 PART2 ～学内行事～



4月	6月	7月	9月	11月	12月	1月	2月	3月
●入学式	●夢緑祭 ●ようこそ先輩	●就職説明会 ●ゆびた祭り ●オープンキャンパス	●保護者懇談会	●特別選抜試験	●意見交換会 （学長と県内病院看護管理者）	●センター入試	●前期一般選抜試験	●後期一般選抜試験 ●卒業式 ●アカデミックオープンキャンパス



学生ホール



図書館



実習風景

夢緑祭

夢緑祭（ゆめみどりさい）は、企画から運営・実施まで全て学生によって自主的に行われるアットホームな学園祭。こどもからお年寄りまで、地域の人々との交流の場です。



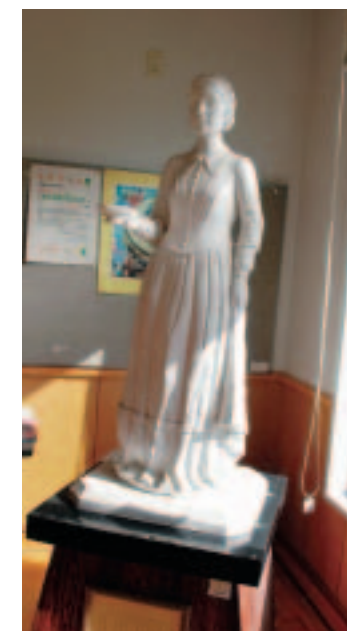
ゆびた祭り

色とりどりの浴衣を着て大学周辺の地域住民の方々や公衆衛生学院の方と一緒に祭りを楽しんでもらい「大学を知ってもらう場」となっています。



オープンキャンパス

県内外から432人の高校生らが本学に来てくれました。暑い日であったため、大学オリジナルの「うちわ」が好評でした。



学外にむけての新しい動き

広報活動の活発化と工夫

公立大学法人化に伴いホームページをリニューアルしました。「開かれた大学」をめざし、わかりやすいホームページづくりをしています。

地域への積極的進出

『各地へ』 21年度の春から秋にかけ、県内外の50を超える高等学校、県内各地の病院、県内の市町や教育委員会に、教職員が訪問しました。

『出前授業』 本学教員が、自身の研究テーマをもとに、ひろく県民の皆さまを対象として行う出前の授業です。依頼者のもとに出向き、県民の皆さまと触れ合いながら授業を進めます。将来の職業選択を控えた中・高校生から看護専門職、一般の方々まで、さまざまな人を対象に、今年度はのべ55のテーマが提案され、8月末日に申込みを締め切るまでに多数の依頼を受け、30件の出前授業を行いました。

『意見交換会』 初の試みとして、県内病院の看護管理者と本学学長との意見交換会を実施し



た。卒後研修、本学と病院をつなぐ遠隔授業、本学と県立病院と協力関係など、さまざまな意見交換がおこなわれました。

『平成23年度「感染管理認定看護師教育課程」の開設を目指して』 2009年、新型インフルエンザのパンデミックな流行、全ての抗菌薬が効かない多剤耐性緑膿菌による院内感染などと、感染症に関する問題が近年増加しており、看護職者を含めた医療従事者に対する感染対策の教育が、社会から強く求められています。今後、当大学（地域交流センター）では感染症の脅威から、個人や地域社会を守るために、各医療保健機関に対応できる感染管理認定看護師を育成したいと考えています。

『産学官連携活動』 広く県民の皆さま、看護職の皆さま、県内産業界の皆さまに対して行う支援及び協働をめざした事業を紹介します。



杉本農園との連携事業について

薬理学・生化学分野
林 辰弥

皆さんご存知のように、三重県南牟婁郡御浜町は日本有数のみかん産地です。今回、三重県産業支援センターとの連携により、その御浜町のみかん農家のひとつである杉本農園と本学が共同して、青切りみかん抽出物の中に含まれる主要な成分であるヘスペリジンについて、その生理的有用性を明らかにする研究を進めていくことになりました。御浜町産の特定機能食品を目指し、現在、コーディネータ役を引き受けていただきました県産業支援センターに本格的な研究に着手するための契約を進めていただいております。



大台町レポート

精神看護学
水野 正延

平成21年の夏、三重の屋根「大台ヶ原」の山懐に抱かれ豊かな自然に恵まれた大台町から地域交流センターへ協力依頼がありました。内容は同町住民のさらなる生活向上（特に健康管理）を図る対策についてのご相談で、これに対し本学は玉田学生部長、松本副局長はじめ関連領域の責任者が結集して大台町の依頼に応える体制を組みました。初回会合では尾上町長とお会いし、また何回かの会合で大台町役場や社会福祉協議会担当者の方と話し合い、大台町の本事業に対する強い意欲を感じています。現在、地域との連携を目指す本プロジェクトが進行中です。

発展的な動き

看護研究支援プログラム

看護単科大学である本学の地域交流センターでは、看護職の方々の看護力向上のためにいくつかの看護研究支援を行っています。図を添えて紹介いたします。

Ⅰ 看護研究の基本ステップ 看護研究の基本を学ぶ看護研究初心者のための研修コースです。図に示した8つの内容を今年度は月1回4日間本学で開催しました。県内20施設から37名の方が受講され、8割以上の方から研修に満足したという感想をいただきました。

Ⅱ 初学者のための看護研究 本学メディアコミュニケーションセンターとの協力により、「看護研究の基本ステップ」の内容をテレビ会議システムを利用して配信する研修コースです。今年度は3ヶ月間に1～2週間の間隔で県南部の2施設に配信し、6施設から毎回60名程の方が受講されました。テレビ会議システムは、リアルタイムで講義内容や質疑応答を配受信でき、本学から遠隔地にある病院看護職の方々に好評をいただいています。

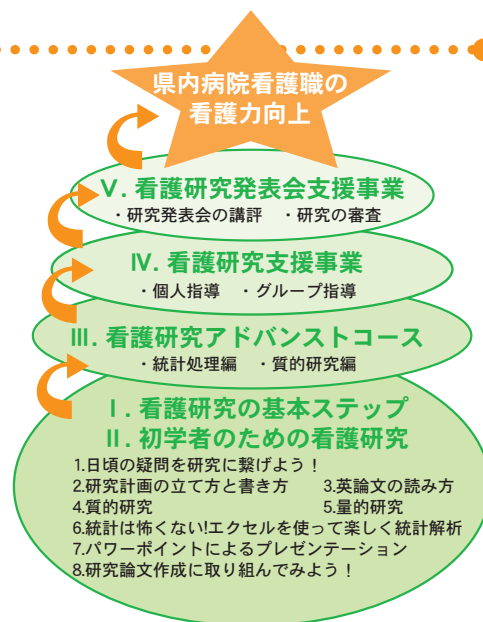
Ⅲ 看護研究アドバンストコース 「看護研究の基本ステップ」を修了した方のための看護研究発展研修コースとして平成21年度より新設されたものです。今年度は質的研究のクリティークと統計処理を各々2日間のプログラムで実施しました。看護研究に熱意ある受講者の方がグループワーク、ディスカッション、パソコンを使用しての演習に参加されました。

Ⅳ 看護研究支援 医療機関で実施される看護研究活動に対する直接指導・支援を通して、看護職者の研究能力育成と地域住民への看護サービス向上を図るものです。今年度は1施設からの依頼を受け、研究計画、研究方法、研究結果等に関する指導が行われました。

保護者懇談会

平成21年9月12日（土）、初めての保護者懇談会を開催しました。保護者と大学の教員とが一体となって学生の生活や勉学の質的向上を図ることを目的としたものです。

当日は56名の保護者の方々のご出席されました。12名の教授・准教授が各ブースに分れ、学業、学生生活、進路、要望などについて、個々の懇談に応じさせていただいたことにより、多くの情報交換の場となりました。



V 看護研究発表会支援 看護研究を専門とする本学教員が、看護研究発表会における講評・審査を行うことによって看護研究評価の公平性を図り、看護職者の研究能力向上に寄与することを目的とするものです。今年度は県内施設から7件の依頼を受け、実施しました。

アカデミックオープンキャンパス

平成23年度から本学の入学者選抜試験科目が変更されます。これをふまえ、平成22年3月20日（土）、アカデミックオープンキャンパスを開催することになりました。本学を志望される高校生の皆様と高等学校の先生及び保護者の皆様方に、次年度の入試準備に取り組んでいただけますことを目的としております。

高校生の皆様には、23年度の入試の説明と大手予備校のベテラン講師によって、22年度の特別選抜入試問題の模範解答と解説が行われます。高等学校の先生及び保護者の皆様方には、23年度の入試の説明に加え、大学案内、最近の大学入試の傾向や大学選びのポイントなど、および卒業生からのメッセージがあります。また、個別相談にも応じる予定です。

三重の地であなたと創る未来の看護

「三重の地であなたと創る未来の看護」 研究科卒業生 前田貴彦

正直この標語が選ばれるとは思っていませんでした。私は標語を考える際にどうしても入れたいことば、使いたいことばがありました。それは「三重」ということばです。私自身三重で生まれ育ち、県内で修学し、県内で看護師として働いてきました。私が愛するこの三重から未来のための看護を発展させていきたい、この地で素晴らしい多くの方々と出会い、そしてともに新たな看護を創り上げていきたいとの思いからこの標語が生まれました。

学 部

本学は、看護学部のみの単科大学です。

取得資格

卒業時取得資格は、看護師および保健師の二つの国家試験受験資格が得られます。また、助産師を希望する人には、助産師国家試験受験資格取得の科目が選択できるようになっています。

カリキュラムの特徴

大学教育課程（カリキュラム）は、「人間」「環境」「健康」「看護」の4つの概念で構成され、人々がより良く生き、より良く生を終えるために、人々の生涯を通じての看護ニーズに応え得る能力が養われるようになっています。

学生を大切にする支援の実践

- 専任教員による継続したチューターからの支援やアドバイスが確実に受けられます。
- 身体的および精神的な健康維持のための各種相談窓口の開設がされています。
- 進路・就職へのきめ細かい相談、指導を受けられます。
- 各種ハラスメントに対する相談窓口があります。
- 大学表彰制度により、学生の各種意欲を高められる方策が講じられています。
- 学生ホール、食堂等の学生生活に必要な充実した様々な施設があります。

受験しやすい環境への工夫

23年度の入学試験から入試科目が変更されます。



在学生の状況

平成22年2月1日現在

	在学生数	男女別内訳		出身別内訳	
		女	男	県内	県外
1年生	100人	91人	9人	71人	29人
2年生	104人	87人	17人	55人	49人
3年生	109人	96人	13人	50人	59人
4年生	93人	86人	7人	49人	44人
合計	406人	360人	46人	225人	181人
比率(%)	100.0%	88.7%	11.3%	55.4%	44.6%



国家試験の合格状況

平成21年3月に、9期生106名が受験した国家試験の合格発表がありました

国家試験の名称	受験者数	合格者数	合格率	全国合格率
第98回看護師国家試験	106人	104人	98.1%	89.9%
第95回保健師国家試験	106人	104人	98.1%	97.7%
第92回助産師国家試験	7人	7人	100.0%	99.9%



就職状況

9期生106名の就職状況です

就職先	看護師	保健師	助産師	進学その他	合計
県内	40人	0人	2人	1人	43人
県外	50人	3人	4人	6人	63人
合計	90人	3人	6人	7人	106人

大 学 院

看護の現実と未来に目を向けて、研究や実践を深めたい
そんな看護のプロを目指す人々を育成します

特徴

三重県立看護大学大学院では現在の看護学教育を基盤として、看護ケアが提供される場からの視点や健康状態の各段階別による視点から看護学を見つめる教育課程を編成しています。

本学は平日の昼間履修する教育課程のほかに、教育方法の特例により夜間等に履修する制度があります。仕事をしながら看護の勉強が可能となるよう、平日の夜間・休日・長期休業中などに授業科目を履修できる制度を設けています。



院生の
声
VOICE

社会機能系看護学領域
看護管理学分野
難波 浩子

私は、三重県立看護大学で助手として働きながら、大学院で学んでいます。

大学を卒業してから大学院に入るまでに10年以上のブランクがあり、研究に関して無知でしたので、自分の勉強不足や能力のなさに情けない思いを幾度もしました。大学院は学部とは異なり、教えてもらうという形式の授業は殆どありません。学生自身が学ぶ意図を持ち、主体的に学び、自ら疑問を解決するための行動が求められます。私は授業の課題を乗り越えていくうちに、少しずつ文献を読む視点が変わり、自分の研究課題が明確になっていくのを感じました。今、ようやく研究の視点や方法を自分なりに掴めてきたように思います。

仕事を続けながら大学院で学ぶことは容易いことではありません。夜間や土日の時間を有効に使うために自己管理能力が不可欠ですし、周囲の理解と協力も必要です。私は、職場の上司や同僚と指導教官に支えられて、学業を続けることが出来ていることに感謝しています。



院生の
声
VOICE

クリティカルケア系
成人看護学
長谷川 智之

私は三重県立看護大学5期生であり、3年間臨床で働いた後、大学院生として本学に戻ってきました。大学院での研究内容は、心肺蘇生法の中で最も重要な技術である胸骨圧迫を、どのような方法で教育をすれば、初学者が効率的に習得できるのかということをも人間工学や学習心理学の手法を取り入れ、実験的に検証しています。実験を行うにあたり、準備からデータ解析まで莫大な時間や学習を要しますが、得られたデータから新しい知見を見出せたとき、今までの苦労が報われたと思えるほど、喜びと充実感に満ちました。大学院での研究によって今後の課題も見つかり、研究者として走り続ける決意ができました。また、昼間の院生は、研究や勉強に打ち込める時間を自分で調整し大学院に専念できます。週末は看護師として病院でバイトしながら生活しています。本学の教員は研究に対して熱心な方ばかりなので、大学院で学ぶことは人生のステップアップにつながると確信しています。



卒業生支援として

地域交流センター事業「夢が丘ハートネット構築」

本事業は、本学の卒業生がイキイキと看護職者として活躍できるよう支援する事業です。卒業生とは、三重県立看護短期大学、短大専攻科、三重県立看護大学、大学院の卒業生を対象と考えています。

今年度の活動は、卒業生を対象とした「よろず相談」と「ミニ同窓会 卒業生集まれ！」の開催です。

よろず相談は毎月第2・4水曜日（祝日を除く、13:30～15:30）に行っています。直接大学へお越しいただくか、電話・メールで相談を伺う方法をとっています。相談内容はどんなことでもかまいません。仕事や家庭でのことなど日頃のささいなことからご相談に応じています。

ミニ同窓会は、年に2回の開催を予定し、第1回目を平成21年11月7日（土）本学学生ホールにて行いました。宣伝はクチコミやチラシの配布が主でしたが、当日は短大・専攻科卒業生21名、大学・大学院卒業生26名、さらに退職された先生方や在籍中の先生方など総勢63名の方に参加いただきました。経験を重ね専門性を極めている卒業生や管理職として活躍されている卒業生、看護職の第一歩を踏み出しひた向きにがんばっている新人の卒業生などからの近況報告がありました。参加者の皆様には、本学の同窓生であることの心強さや、同窓生としての一体感を感じただけ、また明日よりがんばる鋭気を養っていただけたようでした。第2回目は平成22年3月6日（土）じばさん三重（四日市）で開催します。



ミニ同窓会



同窓会役員



短期大学の先輩

生協・図書館・保健室

三重県立看護大学生協のご案内

三重県立看護大学生協についてご紹介いたします。

学内に店舗を持つ看護大学生協は、学生・教職員の皆様の熱いご要望と設立準備期間を経て、2003年10月にオープンいたしました。

現在、入学された全員の学生の方に生協加入をいただいております。

以下の事業内容をもって、学生生活の質的向上に貢献させていただくことを目指しております。

1.食堂事業

●昼食のご提供

2.購買事業

●教科書の販売、ナースウエアなど医療実習教材の販売、教材用パソコンの販売、日常的にご利用いただく文具・雑誌・軽食などのご提供

3.共済事業

●事故や病気の保障を対象とした共済、および他人に対する賠償責任を保障する学生賠償責任保険による、日常生活や医療実習時の保障

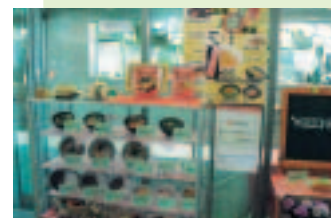
以上の事業について、年間を通じてご提供しておりますが、学生一人当たりの年間利用高は17万円となっています。

このご利用金額は、全国255大学生協の中で常に上位10位以内をキープしており、大変高い利用となっています。

このことから伺えるように、設立当時の熱意が冷めることなく、学生・教職員のみなさんが運営にかかわり作り上げてゆく生協店舗となっています。

これからもますます、皆様のお役に立てるよう事業を進めてまいります。

全員の方に加入いただいている「学生総合共済」



食堂のメニューケース



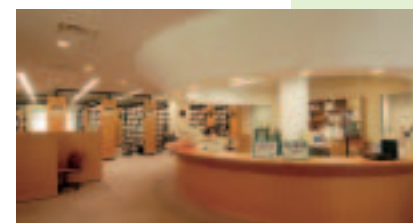
購買店舗（1日300名のご利用をいただいております）



食堂ホール（1日150名のご利用をいただいております）

三重県立看護大学附属図書館

本学附属図書館は、平成9年の開学以来、本学学生はもとより地域に開かれた大学として施設を開放してまいりました。特に医療職に従事するスタッフの方々や看護学を専攻する学生の皆様に便利にお使いいただけるように平日は21:00まで、土曜日も17:00まで開館いたしております。今後とも本学附属図書館をご支援くださいますようよろしくお願い申し上げます。



保健室での今年度の1年を振り返って

一番の業務は、新型インフルエンザ対策でした。4月下旬から最新情報や予防策などを掲示板やHP、メールにて随時配信し、学内全ての出入り口には手指消毒薬を設置しました。学内での発症数や感染状況を全教職員へ周知し、最新情報を共有することで担当学生への指導につなげていきました。その結果、9月に学内で初めて発症が報告されてから1月中旬までの本学学生の罹患率は、12.5%（400名中50名）でした。学年閉鎖をするような集団発生がなく経過できているのは、看護学を学ぶ学生一人ひとりの自覚と、指導していただいた先生方のお力の賜物と思っています。

もう一つの試みは、学生や教職員に向けて「癒しの場となる保健室づくり」を目指しました。「話を聞いてほしい」「居場所がない…」など心がちょっと寂しくなった時に駆け込めるような場所になればと、アロマオイルを焚いたり、ドアを少し開けておいたり、絵本を置いてみたりなど小さな試みですが、行きやすくてほっと一息できるような空間づくりを目指しています。おしゃべりするだけで気持ちが変わることもあります。行き場所に悩んだ時には保健室の存在も思い出していただけたら…と思います。

教職員の紹介

21年4月～新規採用の教員



精神看護学
水野 正延
教授

新たな出発

私は平成21年4月1日付で精神看護学教員に就任いたしました。

精神看護学は、従来成人看護学のなかで「精神科疾患と看護」として教えられていたのですが、1997年の法改正により「精神看護学」として独立しました。

看護学の一翼を担うことを期待された精神看護学を、今後どのような方向に進めるべきか。私は精神看護学を担当する一教員として、「学」の確立に向けて不断の努力を重ねなければならないと、新たに決意しています。



成人看護学
脇坂 浩
准教授

今年度より、成人看護学を担当させて頂くことになりました。看護系大学の教員経験は2校目で、2回目の成人式を迎えたばかりです。これからは、新しい文化や当大学の教育の心につれて、素晴らしいものを貪欲に吸収し、その2倍以上を社会的な貢献で果たしていきたいと考えています。私の主な専攻は「感染看護学」なので、新型インフルエンザ等の感染症に脅かされた地域の人々の心身を守れるように、熱く取り組んでいきたいと思っています。



成人看護学
高橋 美和
講師

平成21年4月1日付けで、成人看護学領域の講師として三重県立看護大学に着任致しました。3月まで京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻の助教として勤務しておりました。看護の単科大学の勤務は初めてであり、単科大学のメリットを期待しつつ、これまでの大学教育の経験を最大限に活かしたいと考えております。

最後になりましたが、今後、微力ながら学生の教育・研究、地域貢献に尽力したいと考えておりますので、先生方には、ご指導、ご鞭撻の程、どうぞ宜しくお願い申し上げます。



実践基盤看護学
片岡 えりか
助手

平成21年4月に実践基盤看護学の助手として着任しました。実践基盤看護学は従来の基礎看護学・機能看護学が一つの講座となったものです。私はその中で主に、1年生や2年生を対象にした基礎看護学を担当しています。柔らかい頭と、看護への熱い思いを持った学生たちとのかかわりの中で、看護の奥深さを感じながら学生とともに学びの日々を送っています。どうぞよろしくお願い致します。



小児看護学
杉野 健士郎
助手

平成21年4月より小児看護学助手として三重県立看護大学で勤務することとなりました。これまでは、小児病棟で看護師として勤務し、病気を持ちながら生活する子どもの看護を行うとともに、小児看護に対する自身の学びを深めてきました。教育や研究という面はまだまだ未経験の部分も多くありますが、自身の経験や学びを学生に伝えとともに、本学の発展に貢献出来るよう、新たな気持ちでがんばりたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。



精神看護学
新地 恵都子
助手

昨年の10月よりこちらで働かせて頂くことになりました。学生の皆さんと接することはとても楽しく、活き活きしている自分を感じつつ、一方で大きな責任を担っているということを実感される日々です。教育に研究に初心者ですが、多くの素晴らしい先生方に少しでも近づけるよう努力すると共に、一人の魅力ある人間を目指し、人生も大いに謳歌していこうと思います。そして、この三重県立看護大学の発展に微力ながら貢献していきたいと思っています。



老年看護学
武田 佳子
助手

卒業後、関東の大学病院に勤務し、昨年度より本学に老年看護学助手として着任しました。臨床では外科病棟にて勤務しており、忙しい職場ではありましたが、看護師として働けることに喜びを感じていました。帰郷を機に、教育に携わることになりました。領域別実習から学生と関わらせていただいています。学生が患者との関わりを学ぶ姿を見ていると、勤務が長くなるにつれて忘れてしまっていたことが多くあることに気づかされます。学生と共に学びながら、臨床で働ける喜びを伝えていきたいと思っています。

私の研究視点



心理学
小池 敦

心理学が対象としている「こころ」は、手にとって確かめることもできず、研究するには曖昧で厄介な代物と言えます。研究に際しては、誰もが確かめられる行動を「こころ」の表れの側面として捉え、丁寧に調べることが大切と考えています。さらに、脳機能の解明も、「こころ」の理解には不可欠な要素であると言えます。最近では、さまざまな事柄に価値を見出す「こころ」の動きについて解き明かすことが、「こころ」を理解する重要な手がかりになるのではと思っています。



実践基盤看護学
平良 美栄子

運命とは不思議なもので、「恩師との出会い」によって教育の道へ進むことを決めましたが、看護部での継続教育を担当する学び・実践の中で知識や技術だけでなく、リーダーシップや態度などの「人の成長」過程についても興味を持つようになりました。

研究分野としては「フィジカルアセスメント」に関するのですが、看護継続教育の受容による看護実践の変化やそれらの変化に伴う患者満足度への影響などについて関心を持っています。

事務局のしごと

法人及び大学（大学院を含む）の事務管理を担っている事務局を紹介します。事務局は「総務課」、「企画広報課」、「教務学生課」、から成り立っています。

総務課

大学を運営していく上で、多岐に渡る業務を担当しています。

財務管理のなか、教職員の人事、施設設備などに関わっています。また、21年度は新型インフルエンザ対策委員会を設置しました。

企画広報課

大学法人事務のほか、大学の改革や中期計画、認証評価に関すること、大学のPR、「大学案内」や広報パンフレットの作成やオープンキャンパスなどの行事を担当しています。



教務学生課

「学生を支援する」業務をしています。入試から卒業まで、いつも学生のそばにいます。大学・大学院の履修等の教務、学務システム、学生の福利厚生や就職事務、奨学金や就学資金、国家試験、学生の健康管理などに関わることをしています。

21年4月転入の職員



教務学生課
佐田 実

看護大学に赴任して早1年、法人化により新たにスタートした教務学生課に所属しています。

私、職に就いて、始めの勤務は紀州尾鷲の土木事務所でした。第一次オイルショックの後でしたが、まだまだ日本も元気で、丁度今の中国の活気を連想するような時代でした。

それから、なぜか農林水産系の部所勤務が多く直近は中央卸売市場でした。そこは4月から指定管理者制度が導入され今は民営になっています。食材の安定供給や安心・安全も民間で充分担えるということなのでしょう。

教育分野は初めてですが、どうぞよろしくお願いいたします。



企画広報課
世古口 正夫

大学に来る前は、アスト津にオフィスがある生活・文化部国際室に勤務していました。学生募集や地域連携の仕事で、高速道路を利用し熊野市と御浜町を訪問する機会がありました。10年前、熊野に単身赴任していたころは、高速道路（紀勢道）が完成しておらず、国道42号線をひたすら自動車で行っていました。

大学では、主に広報や地域連携などの業務を担当しています。三重県立看護大学をこれまで以上に皆様に知っていただくため、タイムリーな情報提供をしていきたいと思っています。



教務学生課
伊藤 生馬

平成21年4月に県税事務所より本学へ異動してまいりました伊藤と申します。

本学では教務学生課に属し、学内情報ネットワークシステムの運用、情報機器の管理業務、学務システムのリプレイス業務などを担当しています。

学内イベント時の機器操作や、各教室のメディア機器の調整にも出向き対応しており、学生の皆さんがより良い環境で充実した学生生活を送れるよう縁の下から支援をしていきたいと思っています。



教務学生課
染川 めぐみ

教務学生課の染川と申します。趣味は旅行と合唱です。昨年4月に大学に赴任してきた際に印象的だったのは、学内の桜でした。桜の木はそれほど多いわけではありませんが、入学式の時、講堂と管理棟の間にある満開の桜は入学生を微笑ましく見守っているようで、春という季節をより暖かく感じたことを覚えています。本学はいつもお掃除やメンテの方に学内の設備等を手入れいただいています。学食も美味しいと好評です。是非一度見学にお越しください。



附属図書館
中野 香苗

昨年4月の人事異動で附属図書館勤務となりました。カウンター業務全般のほか、主に他館との間の文献複写に関する業務を担当しています。昨年度は公共図書館において、看護学とは関係の薄い分野を担当していました。広い主題にわたる資料を扱う公共図書館とは異なり蔵書が看護学に特化しているので、勝手が違い対応に戸惑う場面もありますが、貴重な経験ととらえ、こうした機会に恵まれたことをありがたく感じています。

平成21年3月に 転出の職員

池山 喜三男
西井 ひろみ
畑中 洋子
北島 利哉
中西 正和
坂 昌二
花谷 朋保
瀬織 早耶香

退職の教員

村嶋 正幸 教授 平成21年3月退職
林 文代 准教授 平成21年3月退職
野呂 千鶴子 准教授 平成21年3月退職

平野 真紀 講師 平成21年3月退職
鈴木 敦子 助教 平成21年8月退職



14

MCN REPORT



13

MCN REPORT